

令和6年度 静岡県立浜松南高等学校第4回学校運営協議会議事録

I 日 時

令和7年2月13日（木）午前10時から12時まで

II 場 所

静岡県立浜松南高等学校 第一応接室

III 出席者

学校運営協議会委員

鎌田 徳之（PTA会長）

川嶋 利博（新津地区自治会連合会長）

川嶋 利幸（浜松ホトニクス株式会社 産業開発センター長）

塩見 彰睦（静岡大学大学院総合科学技術研究科情報学領域 教授）

奈木真由美（同窓会会長）

林 左和子（静岡文化芸術大学文化政策学部 教授）

欠席者

山下 広祐（株式会社春華堂 直営部運営推進課長）

学校職員

校 長 鈴木 学

副 校 長 加藤 文人

教 頭 山崎 修司

事 務 長 村松 傑

欠席者

教務主任 小粥 俊輔

IV 内 容

1 学校運営に関する協議（進行：塩見会長）

(1) 次年度の学校運営について（鈴木校長 説明）

学校経営計画書のスクール・ミッションやスクール・ポリシーの大枠の変更はしないが、15年後に浜松市内の中学生の数が3分の2になるという状況の中でも、本校は進学校として生き残ることが一つの目標であり、そのことについては、教職員も意識統一ができています。

課題としては、欠席者の増、読書量の減、家庭学習時間の減、分かりやすい授業や深く学べる授業の評価が必ずしも高くない、教員の生徒と関わる時間や授業研究・準備時間の減、教員が多忙感を感じている。理数科の特徴の活用が不十分、クラス減により生徒の活気が減少し、教員数の減になる等がある。

要因はそれぞれあるが、欠席者の増はコロナが影響しているだろうし、本校の実態として、7限目が終了し、SHR、清掃が終了すると16時30分頃にな

る。勤務終了時刻が 16 時 40 分であるため、その後の補習や、部活動指導は全て時間外となってしまうという状況であり、教員の多忙感に繋がっている。

補習については意欲のある生徒が参加しているため楽しいと思うが、効果の検証はしていない。

また、本校に限らないが、評価の基準が変わったことによる負担やそれを踏まえた多様な入試への対応も大変になっている。

理数科については単なる進学コースとして認識されている可能性がある。

クラス減については非常に大きな課題である。静岡県では 1 クラス減になると教員が 2 名減となり 1 クラス増になると教員は 1 名増となる。この 12 年間で 15 名程度の教員の減となり、一方で、非常勤の時間数が徐々に増えている。非常勤教諭の授業はベテランであり上手いが、授業以外の時間は学校にいない。

このような現状を踏まえ、令和 7 年度以降に更なる取り組みを学校経営計画書に盛り込み、保護者・生徒への目標掲示と理解促進を図りたい。教員数の確保等についても様々な提言を皆様から頂きたい。

【委員より意見・質疑 等】 ○委員 →学校関係者
(塩見会長)

議論する焦点は、令和 7 年度以降の更なる取り組みにある補習の停止、7 時
限目廃止の検討、経営計画書にある読書について、教員削減に関する助言等
令和 7 年度以降の更なる取り組み（補習の停止、7 時限目見直しの検討）

○7 時限目を廃止してもまわるのか？

→演習をやめれば 3 年間で 5～6 時間は確保できる。各教科と詰める必要がある。単純に 7 限目を廃止する以外だと、例えば 50 分授業を 45 分にする方法も考えられるが、年間授業時数を確保するために（定期）テストを減らすとか、夏季休業の開始時期を遅らせるというような検討をしながら実現可能かどうかを探ることが来年度の課題。

○解決策になるかはわからないが、夏の暑い時期は授業時間を短くするなど夏と冬で授業時間の調整があってもいいのではないかなと思う。生徒が学んだ結果が成果となるのであれば、一律の時間配分でなくても良いと思う。

○補習の受講者は？

→希望制であるが、成績の上位者や、勉学の意思が強い生徒が受講している。土曜補習は 1 科目だけで登校するのは時間のロスなので、全ての教科を受講しようということになっている。

○土曜補習は教員が担当しているのか？

→そうである。7 時限目を廃止して放課後の時間が確保できればその時間を活用して勉強会などができると思う。その他、個別の学習指導も可能になる。

○補習はそれぞれのクラスで行われているのか？

→様々である。そのようなケースもあれば、英数国などは学年単位で実施している。きめ細かな指導ができる時間を勤務時間内に確保したい。

○土曜補習は休日出勤になるのか？

→P T Aから補習講師料を支出している。

○令和7年度以降の更なる取り組みは実施して、検証すれば良いと思う。

時代が変わってきている。これまでのやり方には無理がある。教員の労働時間を減らさないと教員を志す者がいなくなる。

○SNSやアプリ等により、時間に縛られずに対応ができる工夫も必要。

○土曜補習は毎週実施しているのか？

→そうである。（模試・定期テスト前・行事等で実施しないときもある）

○今回は、課題出しであるので良いが、発信の表現として「削減」「廃止」はネガティブな印象になるので、工夫した方が良い。

○塾に通っている割合は？

→1、2年生は5割強。3年生は7割程度。近隣校と比較すると通塾率は低い。

○補習の代わりの施策はあるか？それがないと簡単に停止できないのでは？

→授業を工夫することしかないと思う。ICTの活用とか反転授業など。

○いきなり全学年単位で補習停止は難しいのでは？例えば1年生だけ反転授業を実施するため、補習を停止するなど、代わりになるものを用意するという形で進め、検証するのも一つの方法かと思う。ただし、ICTに移行することになると、初年度は相当な負担になると思う。

→国語ではスタディサプリを使用している。

読書

○（成果目標の月1冊以上読書するについて）感動したとか、心に残った本があるか？という表現でも良いと思う。読書がなぜ大事なのかを考えて、冊数ではなく、抽象的ではあるが（心に残る）1冊との出会いについて聞くということでも良いと思う。

○学校が考える読書の目的は何か？

→なぜ読書をするかを考えさせることが評価項目

○例えば読書をして、単語や言葉の意味を覚えることが目的であれば、文書をたくさん読めば良いし、感動や心に残ったストーリーだとかであればオーディオブックでも良いと思う。何を目的としているのかによって、文字を読むことが必要かどうかとも変わってくる。最近はメディアとして様々なものがある。

○スマホ等での電子書籍も可なのか？ 紙の書籍だけなのか？

→紙の書籍だけである。過去勤務した学校ではクロムブック等の使用も可としており、中央図書館から電子書籍をダウンロードする等もしていた。

○クラス全体で、中央図書館の電子書籍にアクセスして使用可能か？

→途中でフリーズする可能性がある。1学年単位でクロムブックを使用して保健のテストを実施しようとした時には、一斉に立ち上げると厳しいため、1分間の時間差を設けて実施している。

○電子書籍を可にすることについては取り入れていいのではないかな？中央図書館も電子書籍を取り扱っているし、電子書籍だから読書にならないということではない。

○読書というどうしても物語系をイメージするが、そうでなくても読書だと思う。例えば図鑑であっても読書でいいと思う。読書教育というより、探究と組み合わせる形にして、探究学習のために何か1冊読むことも読書だと思う。その辺りをもう少し幅広く捉えると良いのかなと思う。

○冊数だけでは目的が明確ではない。なぜ読書させるかが見えてこない。

○5分ではストーリー系の書籍は読めない。達成状況上げるには読書時間を増やすか、メディアを増やすことが必要。

→心とか人生を変えるような体験をさせたいということが目的なのか、情報を手に入れて探究等に役立てたいのか、様々な目的を示そうと思う。心に残るとか人生を変える本とかがあるといいなと思う。

本日いただいた様々な御意見を参考にしながら、令和7年度の学校経営計画に盛り込んでいきたいと思う。

(2) その他

時間外勤務状況について（副校長説明）

- ・時間外平均時間数が令和4年度と比較して令和5年度が増えているのはコロナが5類に移行して、学校行事等も活発になったため。
- ・令和5年度と比較すると令和6年度は少し減っている。
- ・月45時間を超過すると過労死のリスクが高まるといわれるが、該当する職員が多い。
- ・80時間を超える職員もいる。

【委員より意見・質疑 等】 ○委員 →学校関係者

○特定の職員に業務が集中している傾向があるということか？部活動も含まれるのか？

→そうである。

○何か工夫できることがないのかなと思う。その個人でないとできない業務もあると思うが、他の職員とでシェアすることも検討したらどうか？一生懸命に頑張っているからこのような状況だと思う。

→熱心に部活動を指導している職員が多い。数字は大きいですが、本人の負担感は少ないと感じる。

部活動指導も担っている若手教員の時間外が教材研究等で多くなっていることは心配。